

吉岐新報

8月24日(金)

発行所 吉岐新報社
〒811-5136 長崎県吉岐市
郷ノ浦町片原触 247-7
TEL/FAX 0920-47-3196
ikishinpou@oboe.ocn.ne.jp
HP ikishinpou.com
発行 毎週金曜日
購読料 1ヶ月1,000円(税・送料込)
編集長 武田嘉人

いさアイランドプレス
ISLAND PRESS
吉岐の島の観光&タウン情報誌
吉岐の魅力、風景、文化、歴史、
そして人の温かみと笑顔、島で
生きる今の姿を記録と記憶に残
したい…。次から次へと情報が
通り過ぎていく今だからこそ、
大切なモノを残したい…。これ
がアイランドプレスの考えです。
ホームページ iki-islandpress.jp
TEL 090-2503-6233

姉妹都市の輪広がる

本市と諏訪市など4市連盟で 災害時の相互応援協定を締結

市は15日、姉妹都市の長野諏訪市をはじめ、静岡県伊東市、神奈川県秦野市と連名で「災害時における相互応援に関する協定書」を締結した。

諏訪市で開かれた諏訪湖祭湖上花火大会に、各市の関係者を招待するのに合わせて市内のホテルで調印式を開いた。

諏訪市は1995年、伊東、秦野両市と災害時の応援協定を結んでいるが、諏訪市が各市に締結を呼び掛けて実現した。諏訪市以外の3市はそれぞれ姉妹都市関係にないが、4市の連名で締結することで、いずれの市の間でも支援できるようになった。

10月の勝本町、聖母宮大祭で来島した際、取材に訪れた3市はそれぞれ姉妹都市の応援協定も視野に入れた「い」との意思を示していた。協定書は、災害対策基本法で規定される大雨災害などが発生した際に被災市独自の対応が困難な場合、被災市は他の3市に応援を要請できるように定めた。要請を受けた市は生活必需品の提供や救護、救助に必要な車両の提供、職員の派遣などを極力行うこととしている。また、応援が円滑に行われるよう年1回、地域防災計画などの資料を相互に交換することや平常時から地域間交流に努めることも盛り込まれた。

調印式に出席した中原康壽副市長は「災害はいつ起こるかわからない。いざというときにスムーズに応援ができる有意義な協定。今後とも絆を深めていきたい」と話した。

諏訪市との関係は94年5月、俳人・河合曾良の生誕100周年を契機として再締結し、友好を深めている。



縁に旧勝本町と友好都市を締結。吉岐市合併後の05年10月には姉妹都市として再締結し、友好を深めている。

不戦、平和への誓い新た 吉岐から遺族の代表6人が参列

戦後67回目、全国戦没者追悼式

2012年、第67回目の「終戦記念日」の15日は「戦没者を追悼し平和を祈念する日」で、政府主催の全国戦没者追悼式が東京都千代田

区、日本武道館で天皇、皇后両陛下をお迎えしてごそかに行われた。

追悼式には、本市からも遺族を代表して石田町・米倉勉さん、米倉ミチ子さん、山下安行さん、芦辺町・白川七郎さん、橋本政春さん、郷ノ浦町・前川忠義さんの6人が出席、全国各地の戦没者遺族4586人と衆参両院議長、最高裁長官ら各界の代表者が参列、就任後初の参列となる野田佳彦首相の「不戦の誓いを堅持し、国際平和の実現を不断に追及していくことを誓う」などとする式辞の後、正午から黙とうをささげ、戦没者の冥福を祈り、全世界の恒久平和への誓いを新たにされた。

天皇陛下は「先の大戦において、かけがえのない命を失った数多くの人々とその遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします。ここに歴史を顧み、戦争の惨禍が再び繰り返されぬことを切に願ひ、全国民と共に、戦陣に散り戦禍に倒れ

た人々に対し、心から追悼の意を表し、世界の平和とわが国の一層の発展を祈ります」などとお言葉を述べられた。

本市でもこの日は正午の時報に合わせて、各職場や家庭などで1分間の黙とうがささげられたほか、公共団体は半旗にするなどして、

また、今夏も「長崎原爆の日」の9日を中心に、各学校では、被爆者を招いた平和学習などが行われ、核兵器の廃絶、不戦、命と平和の尊さを学ぶなど、

戦没者の御霊を全市民で慰めるため、今世紀を平和の世紀とするため、新たに不戦を誓った。

また、今夏も「長崎原爆の日」の9日を中心に、各学校では、被爆者を招いた平和学習などが行われ、核兵器の廃絶、不戦、命と平和の尊さを学ぶなど、

この署名活動は、有志の生徒たちが校長先生と話し合い許可を得て実施、吉岐から世界平和を訴えている。

ダイエー前では、大きな声で署名を訴える中学生に賛同した買い物客らが署名、5日間で6228人分が集まり、これらの署名は高校生平和大使(高校生1万人署名活動実行委員会)に託され、19日にスイス・ジュネーブへと旅立った。

リーダーの堀江華乃子さん(石田中3年)は、「2年前に平和学習を勉強したが、中学生の

自分ができることはないか」と考えた時、署名活動ならと思って始めました。個人情報問題でなかなかむずかしいことありますが、署名はだめでも核兵器廃絶や世界平和をひとりでも多くの人に伝えることができると、しっかりと口調で語った。

引率の植村訓子教諭も、「原爆を体験した人たちがどんどん少なくなっているという現状で、この子たちが被爆者の声を聞くことができる最後の世代だと思える。『微力だけれど無力ではない』という言葉に共感して、自分も今できることをやっています」と話し、生徒たちをサポートしていた。

高校生1万人署名活動実行委員会の発表では、今回過去最多の15万3400人分が集まったとされる。

創業チャレンジ塾

あなたの創業の夢実現に向けて、創業に関する基本的な知識の習得から開業までを実践的にサポートいたします。皆様には、これまで苦労して築き上げられた事業に深い思いがあることと存じます。やれるだけの挑戦を自ら開いて見ませんか?どなたでも受講可能です。

第1回目 9月8日(土)・9日(日) 第2回目 10月6日(土)・7日(日)

対象 新規開業を予定している方・事業を始めたばかりの方・勉強をしたい方・事業を見直したい経営者・後継者・経営幹部他

定員 各回とも20名

会場 吉岐市商工会 本所 2階会議室 主催 吉岐市商工会

受講料無料

新しい事業を
おこそう!
新しいアイデアを
おこそう!

3氏が当選

県北・漁調委選挙

県北部海区漁業調整委員会委員の一般選挙がこのほど実施され、吉岐地区の同委員に大久保照享(66)、西寛(69)、浦田和男(63)の3氏が当選した。

ひとしずく

23日は二十四節気の一つで、暑さがやむ頃とされる「処暑」。先日夕方近くに月読神社(住吉神社のあたり)を車で走っていると、「カナカナカナ」とヒグラシの鳴き声が聞かれた。その声の乾いた涼しさを夕方に聞くと、寂寥感が高まり「秋」が意識され、厳しい残暑の中、秋の涼しい日も感じられる。赤信号で車を止める事ができ、わずかな時間ではあったが、何とも贅沢な時が流れたように思えた。蝉の鳴き声中でもっとも美しいと、小泉八雲がヒグラシについて語ったと言われるが、夕焼け空のイメージと重なり、一層ムードを高めるその鳴き声が、表す微妙な季節感もとても心地よく、心に染み入って来るよう。1カ月前に比べておおよそ30分間日が入りが早くなった。夜になるとキリギリスやコオロギなど、虫たちの鳴き声が、気づかれないように少しずつ、夜風の涼しさや次の季節を運んでくれているような気がしてしばらく聞かなくなった。先日は、仕事先でよく合う男性と、牧崎へ夕陽を見に行った帰りに、のぞいた岸壁で出会った。夜釣りをしに来たという彼は、最近はこのポイントで好結果を出していると言っており、30分は優に超え、よく肥えてうまさうなイサキを見せてくれた。いよいよ次のシーズンの様々なチャレンジ、取り組みに向けて、準備をする頃である。もちろん趣味の釣りも。

	第1回目	第2回目
日 時	9月8日(土) 10:00~17:00 9月9日(日) 9:30~16:30	10月6日(土) 10:00~17:00 10月7日(日) 9:30~16:30
講 師	税理士 豊村 哲也氏 (税理士法人 マプロス代表)	中小企業診断士 加藤 博幸氏 (加藤経営企画 有限会社)
内 容	新規創業において基本的な知識の習得 (講義形式)	具体的に創業計画を作成しながらの創業実現をめざすための知識習得 (演習形式)
締 切	8月31日(金)	10月1日(月)

●できる限り1回目と2回目の両方の受講をお願いします。
●2日間で1コースとなっております。